

ランチオンセミナー2

座長：岡本 康裕

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 小児科学分野

病気や障がいをもつこどものための ”こどもまんなか”チーム医療

平田 美佳

順天堂大学大学院医療看護学研究科 小児看護学部

共催：大原薬品工業株式会社

2022年6月にこども基本法が成立し、翌年4月の施行と同時にこども家庭庁が創設され、今まさにわが国ではこどものための社会づくりが始まったところです。こども家庭庁は、「こどもがまんなかの社会を実現するために、こどもの視点に立って意見を聴き、こどもにとっての一番の利益を考え、こどもと家庭の福祉や健康の向上を支援し、こどもの権利を守るためのこども政策に強力なリーダーシップをもって取り組みます」と謳っています。1994年にわが国が児童の権利に関する条約を批准してから約30年を経ての本法案の制定は、うがった見方をすれば、日本で長年こどもの権利が守られていない状態が続いてきたことを示しているのではないのでしょうか。

社会福祉分野の堀正嗣氏は「こどもの声は小さくて、おとなや社会には届きません。小さいというのは力が弱いということです。社会では、どうしても声の大きい人、つまり力（権力）のある人の意向でものごとが決まっています。そうした中では、こどもの声は抑え込まれたりして無視されがちです」と述べています。小児医療の対象である病気や障がいをもち入院しているこどもは、“こどもである”と“患者である”という二重の弱い立場におかれています。ですから、病院ではこどもの声がもっと小さく、医療者や時には親という声の大きい人の意向でものごとが決まっていくということが起こりやすいのです。私たち医療者には、こどもの発する言葉、言葉にはならないこどもの心の声にしっかりと耳を傾け心を寄せ、その小さな声を大きくし、その声に応じて手を施すケアを行うというアドボケートとしての役割を求められています。

多忙極める小児医療の現場で、その役割を遂行するのは容易ではないことを、私自身30年に渡る臨床経験のなかで痛いほど感じてきました。理想とすることすべてを実現するのは難しいかもしれませんが、無理だと諦めるのではなく、一歩ずつ前進させていこうという志を持ち続けることが大切です。そして実際に、同じ志を持つ仲間と協働することによって、実現不可能だと感じていたことが実現されるという事実を数多く経験してきました。小児医療には、私が新人看護師のときには存在しなかったような様々なこどものサポーターとなる職種が生まれ、活躍するようになってきました。病気や障がいをもつこどものための医療やケアを提供するためには、チーム医療が最も大切であり不可欠です。本講演では、タイトルに示した「こどもまんなか”チーム医療」を体現した私自身が所属していたかつてのチームでの臨床経験をご紹介します。チーム医療のこどもにとっての意義についてお話しさせていただきます。

ランチオンセミナー3

HPVワクチンの効果的な推奨方法

座長：古田 博文 ふるた小児科クリニック / 札幌市小児科医会 会長

夜尿症の診療テクニック ～アラーム療法をやってみよう！

大友 義之

順天堂大学医学部附属練馬病院 小児科

共催：株式会社アワジテック

夜尿症は5歳の段階で夜間就眠中に尿失禁を月に1回以上の頻度で3ヶ月以上連続して続くものと定義されるが、積極的な治療が行われるのは小学校入学後（6歳の時点）であることが一般的である。

国内外のガイドライン（下記参照）で第1選択の治療は、デスマプレシンを用いた薬物療法と、アラーム療法のいずれかか、両者の併用とされている。アラーム療法は、患児とその養育者及び医療者にとっても若干手間が掛かるため敬遠されがちであるが、適切に行われれば、薬物治療と同等の有効性であるのみならず、終了後の再発のリスクが少ないため夜尿の治癒という点で薬物治療を上回るものである。

本セミナーでは、最新の夜尿症治療の流れを概説し、特に、アラーム治療のコツを詳細に紹介したい。

参考文献

- (1) 夜尿症診療ガイドライン2021. 日本夜尿症学会(編), 診断と治療社, 東京, 2021
- (2) Nevéus T, et al. Management and treatment of nocturnal enuresis –an updated standardization document from the International Children's Continence Society. J Pediatr Urol, 16:10-19, 2020